

地域包括ケア市民フォーラム

～おうちっていいよね～

日時：平成28年11月26日 場所：気仙沼プラザホテル 参加者：148名

病気や障害があったとしても住み慣れた「我が家で」暮らすための仕組みがあります。
どんなことが出来るのか、元気なうちから聞きにきませんか？



気仙沼市保健福祉部高齢介護課
菅原 宣昌 氏

地域包括ケアシステムとは、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、地域ぐるみで作っていく「まちづくりの仕組み」です。気仙沼市では、平成26年に気仙沼市地域包括ケア推進協議会が設立され、医療・福祉・地域・行政等が連携する仕組みづくりを進めてきました。

震災後、医療・福祉に関しては全国の先進的な団体の支援を受け、また被災後の地域の現場で、専門職の方々が自然発生的な地域包括ケアを体现されてきました。今や本市では他に誇れる様々な連携の取組が生まれつつあります。

一方で、震災を経験した地域のみなさんは、等しく新しい「まちづくり」をしていくという「思い」を共有しており、私たちが「ここで暮らしてよかった」と思えるまちを地域ぐるみで作っていくため、地域包括ケアという、みんなが繋がっていく仕組みを一層進めてまいります。

第1部 地域包括ケアについて

1 健口で快適な人生を

田中前加藤歯科医院 歯科医師
加藤 誠 氏



本日のポイントは、在宅における口腔ケアの重要性と誤嚥性肺炎の予防です。気仙沼市には、通院が困難な方のお宅を歯科医師が訪問する在宅訪問歯科健診と言う制度もありますが、実際に要介護者のお宅を訪ねると、自分で歯磨きは出来ない訳ですから、口腔の衛生状態が劣悪になっている場合が殆どです。そこで歯科衛生士が週に1回通い口腔ケアを行う制度があります。口腔ケアによって誤嚥性肺炎を予防し摂食・嚥下という口腔の機能を保つことが目標です。もっとも、日本で最初に口腔ケアが行われたのは施設において、昭和54年頃のことでした。その頃は口腔ケアという言葉はありませんでしたし、要介護者を歯磨きしてあげることは行われていませんでした。当時、要介護者の口の中はほとんど忘れ去られた状態だったようです。施設のスタッフが食後のブラッシングをしたところ発熱が減ったというデータが得られ（誤嚥性肺炎の予防）、今日の口腔ケアへと結びついていったようです。

2 薬剤師の取り組み

一般社団法人気仙沼薬剤師会 会長
(株)南郷調剤薬局

武田 雄高 氏

市民の方々には「病院から追い出される」という誤解から在宅医療が敬遠されていたように思う。治療と医療は別だと私は認識している。前者は医師主導により疾患の軽減や完治を目的に行われるもので対象は患者である。これに対し後者の対象は利用者を含む「家族」である。目的は利用者家族の生活を視ることでありケアマネジャーを中心とする医療従事者チームによる。故に「在宅治療」ではなく「在宅医療」と呼ばれているのだ。職種間の情報共有により、市民フォーラムがスタートした当時には斬新だった残薬調整や、介助する家族の生活習慣を鑑みた処方内容の検討などが現在では当然に行われる様になったのは喜ばしい。

徐々に広がる地域包括ケアの現場で、薬剤師は利用者家族や関連職の方々から多くを学ばせて頂いていることに心から感謝している。私たち薬剤師は今後も「服薬がある生活を見守る」ことで高齢化する地域医療に貢献する。

